

<p><b>研修成果の活用レポート/NITS 大賞エントリーシート</b></p> <p>※研修成果の活用レポートは、NITS 大賞エントリーシートと同様式です。NITS 大賞に応募される方は、推薦者への提出とは別に、&lt;award@ml.nits.go.jp&gt;宛て、メールにてお送りください。なお、メール送信後、3 日以上受領メールが届かない場合はご連絡ください。</p>	<p>※事務局記入欄</p> <p><b>受理No. : D-66</b></p>										
<p><b>【学校名・氏名】</b> 松山市立桑原中学校 ・ 石村大祐</p>	<p><b>【応募部門】</b> 校内研修プログラム</p>										
<p><b>【修了研修名】</b> 教職員等中央研修(第 2 回次世代リーダー育成研修)</p>	<p><b>開発・実践部門</b></p>										
<p><b>【活動名】</b> 教育相談に向けた校内研修 ～安心・信頼の人間関係を築くには～</p>											
<p><b>【目的】</b></p> <p>近年、インターネットなどの普及に伴い、社会環境や生活環境が大きく変化してきている。そのため、生徒の「心」に関する健康課題も多様化・深刻化の傾向にある。特に多感な時期にある中学生では、将来についての不安、部活動や日常生活における友人との人間関係について、悩みを抱えている場合が多い。そこで、一日の長い時間を共に過ごす教師にとってコミュニケーション能力の向上は、生徒の細かな変化にいち早く気付き、生徒を支えていく上で不可欠である。さらには、「いじめ」や「虐待」など重大事案を防ぐことにつながる。校内研修を通し、自身を振り返るとともに互いのスキルを学び合い、教師のコミュニケーション能力の向上を図りたい。</p>											
<p><b>活動の内容</b></p> <p>◎コミュニケーション能力向上のため、三つのポイントについて考え演習を行った。</p> <p><b>(1) 相談しやすい人の条件を整理する</b> (生徒はどんな教師に相談をするか?)</p> <div data-bbox="192 1186 1380 1501"> <p>① 自分だったらどんな人に相談するか考え整理する。              ② グループで意見を出し合いまとめる。              ③ 自身の振り返り              ・表情、話の聞き方、接し方 等</p> <p>↓</p> <p>④ 今後の生活や教育相談に生かす。</p> </div> <p><b>(2) 過去の事例や仮定に基づいた演習</b> (相談場面を設定し、教師役と生徒役に分かれ演習を行う)</p> <p>① 幅広い経験年数の構成になるようグループ分けを行った。              ② 学校生活、部活動、SNS、いじめ、家庭での相談場面を設定</p> <table border="1" data-bbox="201 1711 1329 1911"> <thead> <tr> <th>学校生活</th> <th>部活動</th> <th>SNS</th> <th>いじめ</th> <th>家庭</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・人との関わり方 ・学業に関する事 ・友人関係 等</td> <td>・先輩、後輩 ・練習に関する事 ・学業と両立</td> <td>・書き込み ・知らない人とのやりとり ・画像、動画拡散</td> <td>・悪口 ・暴力 ・無視 等</td> <td>・暴力</td> </tr> </tbody> </table>		学校生活	部活動	SNS	いじめ	家庭	・人との関わり方 ・学業に関する事 ・友人関係 等	・先輩、後輩 ・練習に関する事 ・学業と両立	・書き込み ・知らない人とのやりとり ・画像、動画拡散	・悪口 ・暴力 ・無視 等	・暴力
学校生活	部活動	SNS	いじめ	家庭							
・人との関わり方 ・学業に関する事 ・友人関係 等	・先輩、後輩 ・練習に関する事 ・学業と両立	・書き込み ・知らない人とのやりとり ・画像、動画拡散	・悪口 ・暴力 ・無視 等	・暴力							

③ 過去に経験のある相談や今後予想される相談についてシミュレーションを行った。  
 ④ 各グループの内容を全体で共有

他のグループの発表を聞き、自分ならどう話すか考える。

〈全体に関する共通事項 (気を付ける事柄)〉

- ・話をする場所、距離感を確保する
- ・聴くことに重点を置く→まずは受け入れる
- ・考え方や思いを押し付けない
- ・言葉のトーンを考える
- ・言葉掛けの間、タイミングを保つ
- ・継続的に見守る
- ・一人で抱え込まない
- ・内容によっては関係機関と連携する 等

実際の教育相談では、上記を踏まえた上で・・・  
 ※一人一人の性格や考え方、家庭環境などが違うことを念頭に置く。  
 ※生徒の良さや強み、弱みを踏まえ言葉を選ぶ。

子どもをよく見て  
知ることが大切

**(3) 気付く目、感性を養う** (自分から相談できない生徒にいち早く気付くためには?)

- ① 生徒の変化 (SOS) に気付くポイントを考え整理する。
- ② 全体でまとめる。(共有する)
- ③ 自身を振り返り、再確認するとともに、新たに知ったポイントを意識する。(感性を養う)

〈変化の例〉

・表情が暗くなった	悩み?	・急に怒りっぽくなった	虐待?
・すぐに目をそらす		・体にあざができています	
・遅刻が増えた	いじめ?	・痩せてきた	
・保健室への頻度が増加		・制服、洋服が臭う	
・一人で過ごすようになった		・着替えが遅く、拒む	
・口数が減った		・マスクを外そうとしない	

※生徒の心に寄り添いながら様子を見て慌てず観察し、情報の収集を心掛ける。  
 ※一人で様子を見ようとせず、周りの協力を得る。

**活動の成果 (研修後の感想から)**

- 生徒理解が根底にあつてこそ信頼関係が築ける。自分自身を振り返るよい機会になった。
- 演習を通し、話の聴き方、声掛けのタイミング、伝え方の方法が参考になった。
- 多面的に生徒を観察し、些細な変化に気付くことのできる感性を養っていきたい。
- 様々な場面設定でのシミュレーションが参考になった。